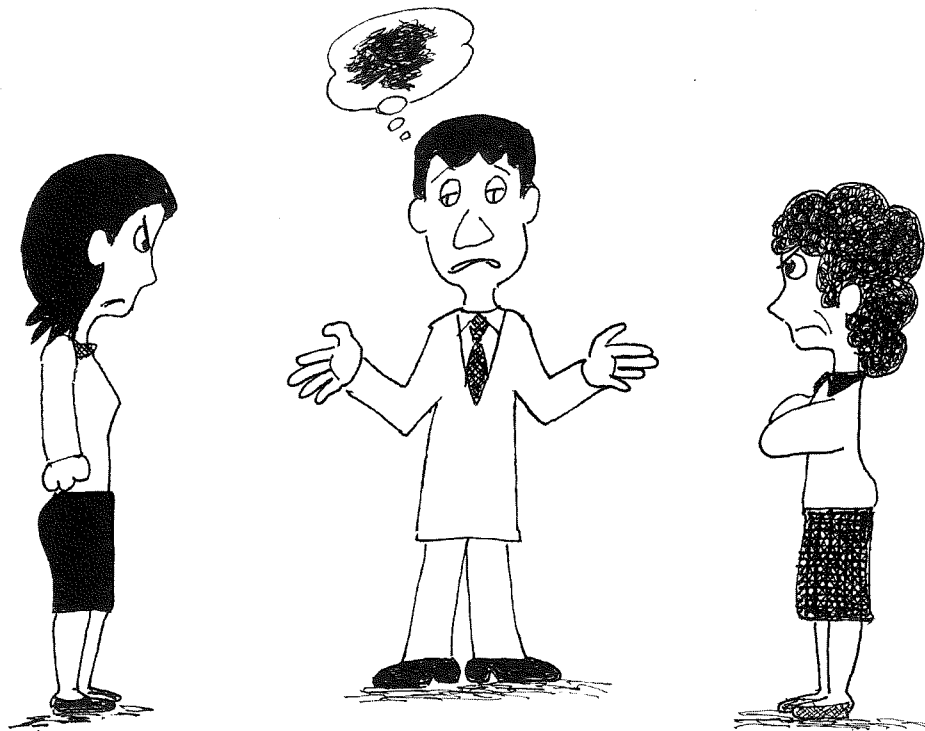


あちら立てればこちらが立たぬ

安全立てれば、作業も立つ…



「あちら立てればこちらが立たぬ」とは、一方を良いようにすれば他方が悪くなる。「双方立てれば身が立たぬ」というように、物事は両立しがたいという例えです。

「オレ、上司と現場の板挟みだよ、上司の言うようにすれば、現場から不満が出る、あちらを立てればこちらが立たずだよ」とは、現場でよく耳にする困り事です。

「安全第一」とはいうけれど、実態は「作業第一」。安全を立てれば仕事が立たず、仕事を立てれば安全が立たず、両方立てればこの身が持たぬ…と悩む人が多いようです。

この悩みは管理者も監督者も、第一線の作業者も同様で、なかなかスローガン通りに「安全第一」が受け入れられていません。

しかし、考えてみると、安全管理や活動は仕事的手段であって目的ではありません。安全が仕事かと分けて考えるのではなく、安全と仕事は同じものだと考えるべきでしょう。

始業前に定められた安全点検をする。整理・整頓をする。安全装置や保護具を使用する。作業標準を守るなども、効率的な良い仕事のための手段のほずです。

したがって、「安全立てれば仕事も立つ」となり、「あちら立てればこちらが立たぬ」と悩むことはなさそうです。